

発行日 2010.8.05(7,8月合併)

編集発行人 重富克彦

時は縮まっている。

1Cor7:21

Kairos

事務所所在地 064-0912 札幌市中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516

沈黙の知識

マルタとマリアの物語



マルタとマリアの話題は、おおいに盛り上がる。先日も、新札幌での聖書の学びは、本筋の創世記20章の十戒最後のいましめ「隣人の物を欲するな」を起点に話はふくらみ、その日の日課ルカ福音書のマルタとマリアの話にまで及んだ。

心情的には、多くの人が、マルタに同情的だ。自分の経験と照らし合わせても、何にもせずにイエスの話に聞き入っているマリアよりも、接待のためにあれこれ気を配り、心を乱し、あるうことか、気持ちよく過ごしていただくために心を砕いていたはずの、大切な客イエスをなじるという失態を演じてしまったマルタの気持ちの方がよくわかるのだ。特に女性はそうかもしれない。

マルタはイエスから「マリアは良い方を選んだ」と言われて、ハッと気づいただろうか。いやいや愛すべきマルタのこと、「結局イエスさまは、わたしなんかよりマリアの方が好きなのよね」と、すねたかも知れない。こんな風に、あれこれ想像をふくらませてくれるところが、この物語の魅力でもある。

マルタ、マリアの心情はさておき、こ

の物語の奥行きは実に深く根源的だ。マルタは行為の人であり、マルタの延長線上に、わたしたち現代の文明人の姿がある。

二十世紀前半に鋭い信仰詩を書いたイギリスの詩人T.Sエリオットの「岩のコーラス」に次のような一節がある。

思想と行動の果てしなき反復、果てしなき発明、果てしなき実験。/動き



の知識はもたらずが、静止の知識はもたらさない。/しゃべる知識はもたらずが、沈黙の知識はもたらさない。/言葉の知識、そして神の言葉への無知。/われらの知識はすべてわれらを無知へ近づけ、/われらの無知はすべてわれらを死へ近づけ、/しかも、死へ近づくことは神へ近づくことではな

い。/われらが生のうちに失ってしまった生命はどこか? /

詩人がこれを書いたのは第一次世界大戦の後であった。その後も、果てしない反復があり、果てしない発明があり、果てしない実験があり、膨大な知識の集積があったが、反面、人は「なくてはならないただ一つのもの」への限りない無知に近づいた。

神の子の言葉に、ただ座って耳を傾けるマリア。「沈黙の知識」「神の言葉への傾聴」、イエスがおいでになったときマリアが選んだのはそれだったのだ。

只管打坐(しかんたざ)とは、禅師道元の教えである。

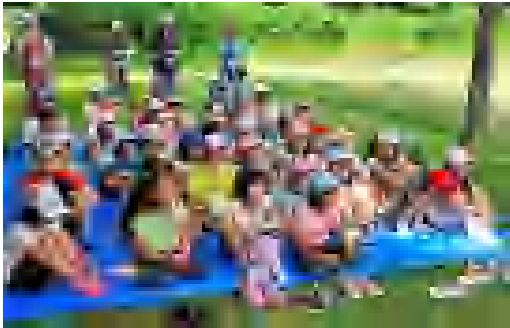
「ただ座りなさい。悟りたいという気持ちさえも捨てて座りなさい」という意味だ。

イエスもまた、神の前にまず只管打坐をもとめられる。でも禅ほど難しくはない。雑念を捨てる必要もない。雑念ごと神の前にさらけ出し、おゆだねし、その日その時の命ごと受け取り直す。そこに沈黙の知識がある。この命の知識はどんな知識よりも豊かだ。

(重富)

教会の活動

学んだ！ 遊んだ！ 食べた！ ルーテル子どもキャンプ 8/3～4



2010年の北海道特別教区主催のルーテル子どもキャンプは、このところ大のお得意さんとしてキャンプ場にも知られるようになった鶴川町営穂別キャンプ上で行なわれた。子ども小学生39名、中学生ジュニアスタッフ3名、幼児1名、スタッフ19名、合計62名の大部隊だった。

今年の特筆事項は、スタッフの中に、幼稚園児のお母さんと、卒園児で教会学校の生徒のお母さんが加わってくださったことだ。

さらに、全国を自転車旅行中で、加納牧師宅に逗留していたイケメン青年も飛び入り参加。女の子たちにモテモテで、いっそうキャンプを盛り上げてくれた。

看護師さんも、去年はゼロで心細かったが、今年は3人、心強かった。

今年のテーマはモーセ物語。モー

セが召命を受けて、ファラオの抵抗と闘いながら、神さまの導きでイスラエルの民を、エジプトから脱出させるまでを、2日間かけ、朗読劇や、随所取り入れられたゲームを通して、楽しみつつ学ぶという趣向だ。台本を見たときには少し地味な印象も

あったが、実際には、子どもたちは大いに乗ってくれた。ジュニアリーダー3名も、この朗読劇では、欠かせない存在。大活躍してくれた。

献身的なスタッフの労と、素直な子どもたちに感謝。

自由時間の川遊び



「過ぎ越の夜」に思いを馳せて暗闇ゲーム



講演会へのご招待

講師 工藤信夫先生 8.22.13.30

8月22日午後1時30分より、札幌礼拝堂において、工藤信夫先生の講演会が開かれる。先生は、精神科医としての立場から、多くの発言をされ、著書も多数。その一貫した姿勢は広い意味での福音伝道者であり、一貫した思想のテーマは「受容的愛」。その言葉

の端々、その文の行間には、弱い者、行き詰まっている者への共感と優しさが滲み出ている。それはご自身がキリストに受容されているという深い思いから来るものである。二部として交流会(会費1000円)も予定されている。交流会参加は申し込み順、20名限定。

めばえ幼稚園

夏休み・・・

8月19日までは、めばえ幼稚園も夏休み。毎年のことだが、1ヶ月ぶりに会う子どもたちの背丈は、アレッと思うほど伸びており、あらためて日々の成長を実感させられる。

8月20日に二学期が始まると、すぐに9月23日の運動会に向けての練習が始まる。その前に9月3日はいも掘り遠足。秋は収穫と運動の季節だ。

10月11日 in Sapporo 教区信徒大会に集まる

教区の民がこぞって一つの聖餐をいただく大会礼拝。イエスのみ跡を追いつつ、洗足の主を思い、また栄光を讃える讚美集会。心と心を繋ぎ、溢れる祝福を受けよう。

礼拝への招待

日本福音ルーテル札幌教会は、三つの礼拝堂よりなる一つの教会です。どの礼拝にも参加できます。
札幌礼拝堂 日曜10:30
新札幌礼拝堂 日曜10:30
札幌北礼拝堂 土曜10:30

くわしくは4P下欄のURAよりHPを御覧下さい。

北村兄、天に逝く

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

詩編23:1

北村兄は自分の病状を度々電話で知らせてくれた。肺と骨にがんがあることが発見されたのは、2009年の秋も深くなってからだったと記憶している。最初に骨のがんを退治し、次に肺のがんを退治する。ただ肺のがんを退治するには、がんの性質を突き止めなければならないので、東京の病院に細胞検査に出して結果が分かって後に、それに対応した抗癌剤治療を行なうということだった。

骨の放射線治療は1回の照射で終わった。これにはわたしも驚愕した。肺の細胞検査の結果は、大細胞がんで、小細胞がんにくらべて、抗癌剤が効きやすいということで、年末から治療が始まった。これも週1回程度の投与で、身体的にもさほど負担なく、頭髪も抜けることがなかった。彼はこの時を結構楽しんでいたように思える。インターネットで、海外の論文を読み、看護師さん相手のだじゃれを飛ばし、病む身になってこそ与えられるいろいろな気づきに感謝していた。たとえば、わたしたちが何気なく使ってしまう「幸いに

して」という言葉も、聞く人にとっては辛いものである。抗癌剤治療が劇的な効果を発揮していたときは、つい「幸いにして」と言ってしまうのも無理からぬ事。けれど彼はその言葉を使うのを自戒した。他のベットには、頭髪が抜けた人もいれば、入退院を繰り返している人もいたからだ。自分が「幸いにして」なら、他の人は「不幸にして」ということにもなる。確かに病は、多くの気づきを与えてくれる。

数回にわたる一通りの治療が終わって、3月に退院するときには、肺にあった影も70%は消えていた。この時点では本当に、もう一がんばり第4クルーを終了すれば、普通の生活

に戻れると、だれもが思ったに違いない。わたしもそう思った。

けれど第4クルーを一通り終えてのことだったか、その途中だったか、わたしの記憶は定かでないが、ある日、肺に前回以上の大きな影が発見され、急いで精密検査をすることになったという知らせを受けた。それががんの影か、別な要因によるものかは分からないということだった。

この検査の結果を待つときだったと思う。「今までの治療の効果があがっていれば感謝です。そうでなかったとしても感謝です」とわたしに言ってくれたのは、彼もそれまでは、完全治癒の日が来ることを信じていた。けれど、状態は予想以上に悪く、死の可



能性も視野に入れなければならないと感じていたのだと思う。

検査の結果は、肺がんは増殖しており、脳と内臓にも転移があることが判明した。血痰が出るなど、自覚的にも、肺がんの進行を体で感じていた。けれど彼の「そうでなかったとしても感謝です」という言葉に偽りはなかった。彼は取り乱すことなく、一つ一つの事態を受け入れていった。

抗癌剤は、前回よりも強い薬が使われ、さすがにむかつきや発熱を避けることは出来なかった。「今日ごっそり髪の毛の毛が抜けました」と、例のユーモラスな口調で電話もくれた。

それでも少しずつは改善しているよ

うでもあった。入退院を繰り返しているうちにすでに6月。脳の転移がんの治療も、1回の照射で終わり、一旦退院しての脳外科でのCT検査の結果ではすでにがん細胞も消えているという上々の結果だった。

だかそのすぐ後である。自宅で突然立てなくなり、緊急入院となった。その知らせは奥様からいただいた。CT検査は何だったのか。そのときがん性の髄膜炎を発症していたらしいことは、後にご長男から聞いた。

さぞ辛かっただろうと思うのは、脳に水がたまるのに、患部が、その水を抜けない部位だったらしいことだ。苦痛緩和のためにモルヒネの投与が始まった。

彼はいつ自分の死を受容したのだろうか。人は死を受容するとき、それらしい言葉を親しい者に告げると言う。奥様や息子さんたちには、それははっきりと告げたかも知れない。

今にして思えば、再検査を待つときの「今までの治療の効果があがっていれば感謝です。そうでなかったとしても感謝です」という言葉も、今から起こるどんな事に対しても、すべて主に委ね、感謝してそれを受け入れて行くという、深い覚悟のほどをあらわす言葉でもあったのだ。

その言葉通り、苦しい中でも、彼は感謝していた。見舞いに行った旧友に「自分は幸せだ」と、苦しい息遣いの中で言ったという。このときの「幸せだ」は、前の「幸いにして」とは違う。

人は自分の死を感謝のうちに受け入れることが出来る。それは命の主すべてを委ねることを知る者の恵みだ。その死の受容は静謐で勝利の輝きを帯びている。(重富)

<夜の魔女リリス>

「夜の魔女」は旧約聖書の中で『イザヤ書』34章14節にただ1回だけ出てくる語句である。「荒野の獣はジャッカルに会い / 山羊の魔神はその友を呼び / 夜の魔女は、そこに休息を求め / 休む所を見つける」という表現でエドムの地が非難される。口語訳（1955年改訳）も新共同訳と同じ訳語を用いている。『聖書スタディ版』は「夜の魔女はヘブライ語でリリトといい、メソポタミア起源の魔女と言われる。ヘブライ語で夜を意味するライラ - と似ていることから「夜の魔女」と訳されるようになった」と註を付している。関根正雄訳『イザヤ書』（岩波文庫）では「山猫と山犬は共に会い、サテュロスは互いに呼びかける。 / そこにはリリスが休息を得、おのれの為に休み所を見出す」とあり、「リリス」については「砂漠にいるデーモンの名」という註がほどこされている。ヘブライ語のLilithリリス（あるいはリリト）は紀元前4千年紀にメソポタミアに侵入したシュメール人のデーモンの名Lilituに起源する。メソポタミアではそれは疫病をもたらす暴風のデーモンであったとされる。夜の魔女リリスは、バビロン捕囚のユダヤ人がメソポタミアから借用した形象らしい。聖書に1回だけ言葉として登場するこの「夜の魔女」は、その後のユダヤの民間信仰において影のように立ち上がって独り歩きを始める。リリスは、夜の間に男を襲い、男の意志に反して男との間

に子供をつくるために現れる女夢魔である。また、リリスは出産を妨害し、産婦に危害を加えるばかりでなく、新生児の血を飲み、その頭蓋の間から脳髓を吸い取る、毛むくじゃらで、翼をもつ妖怪である、と信じられた。まるで吸血鬼である。それで、聖書学者のジェイムス・モファットJ. Moffattは、その個人訳聖書（1924年）においてイザヤ書の当該個所にvampires「吸血鬼ら」という思い切った訳語を与えているし、5世紀のラテン語訳聖書ではラミアー Lamia（吸血蛇女）を当てている。ユダヤの民間伝承によれば、

ヨーロッパの民衆文化とキリスト キリスト教の中の民間信

栗原 成郎



リリスはアダムの最初の妻であった。神はアダムを創造したとき、アダムのために土から女を造り、それをリリスと名付けた。アダムとリリスの間にすぐに争いが生じた。リリスは、男女は同じ土から

造られているので、男女は同格・同権だ、と主張したが、アダムは承知しなかった。リリス腹を立て、アダムのもとを去った。神から使わされた三人の天使が、デーモンたちの住処である紅海のほとりでリリスに追いつき、エデンに帰るように説得したが、リリスは聞く耳をもたず、自分は新生児に危害を加えるために創造されたのだ、と言い張った。聖書には、アダムにエバ以前に前妻がいた、とは記されていない。しかし『創世記』には女性の創造についてやや矛盾した二重の記述がある。2章22節は「そして、[神は]人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた」とあって、女は男のあばら骨から造られていて、土の塵から造られていない。しかし、それに先立つ1章27節には「神は御自分にかたどって人を創造された。

男と女に創造された」とあり、女は男と一緒に造られている。アダムの最初の妻をリリスとする物語の最古の形は、8~10世紀に成立した文献『ベン・シラの字母』にあるとされるが、この物語は『創世記』の重複した記事の解釈が拡大されて、発達したものである。ルネサンス期のヨーロッパにおいてはユダヤ秘教「カバラ」への関心が非常に高まり、その後、ゲーテの『ファウスト』第1部に見られるように（メフィストフェレスがファウストにリリスの存在を教えて「あの女に気をつける」と忠告する）、アダムの最初の妻、妖艶で蠱惑的な容姿の女性リ

日本福音ルーテル札幌教会 牧師 重富克彦 岡田 薫

札幌教会 URL <http://www.jelc.or.jp/sapporo>

札幌礼拝堂 064-0912 中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516

札幌北礼拝堂 001-0031 北区北31条西4丁目1-5 011-726-3243

新札幌礼拝堂 004-0053 厚別区厚別中央3条6-1-5 011-891-5246

